

# 住吉市民病院廃止問題

## 母と子に必要なものを

### 市民集会に350人 同病院の役割学ぶ

「大阪の母と子どもたちに、いま必要なものを考えよう」と、「5・24市民集会」(同実行委員会主催)が5月24日夜、大阪市西成区の西成区民センターで開かれ、約350人が参加しました。大阪市の吉村洋文市長が住吉市民病院の廃止(来年3月末後に誘致した民間の南港病院が17日、辞退を表明。小児・周産期の医療空白が生まれる危険が現実のものになっている中、住吉市民病院が果たしてきた役割をあらためて学び、大阪市の責任で公的医療機関を設置することを求める世論と運動をさらに広げようと開かれたものです。

## 大阪市の責任で公的医療機関を

短期入所事業で  
大切な役割担う

重症心身障害児医療・療育について、大阪発達総合療育センター(大阪

市東住吉区)の船戸正久副センター長が講演しま

した。医療的ケアが必要

な重症心身障害児は府全

体で、2013年の79

26人から15年の828

4人へと増加し、医療技

術の進歩とあいまって、

8割が在宅生活だと指

摘。短期入所事業所や医

療機関による短期入所の

実施を求める声が高まっ

ていると紹介しました。

子育て支援とし

てますます大切

医療レベル絶対落とさせない

「民」ではなく「官」がやるべき

機能の継続へ市民と協力して

保険医協会理事長や地元医師会長も

大阪府保険医協会の高  
本英司理事長は、維新府  
市政が住吉市民病院を廃  
止して統合するという住  
吉母子総合医療センター  
(仮称)は、来年4月の開

業時から医師の体制が整  
っていないと指摘。「小  
児・周産期の医療のレベ  
ルを絶対に落とさせない  
ためには、一刻の猶予も  
ない」として、市民の声  
を上げていくと述べま  
した。  
住之江区医師会の松嶋  
三夫会長は、民間病院誘  
致の失敗の原因につい  
て、大阪市が小児・周産

## 市民との約束破るな

市民の会が吉村市長に要望

住吉市民病院を充実さ  
せる市民の会は5月29  
日、吉村市長に「医療空  
白をつくらず、住吉市民  
病院の医療機能を継続さ  
せるため、大阪市が責任

0床は受け皿がないの  
で、なくなっても仕方な  
い」「府市共同母子医療セ  
ンター(仮称)が来年4月  
に予定通り開院すれば医  
療機能は強化され、問題  
院に移す予定だった10  
療機能は強化され、問題

ますます大切だ」と強  
調。大阪府で13年度以  
降、府で14年度以降に取  
り組んでいる医療型短期  
入所事業で、「住吉市民  
病院も非常に大切な役割  
を担ってきた」と力説し  
ました。

住民に支えられ  
た地域の「財産」

住吉市民病院の元助産  
師、石黒和代さんはパー  
トナーからのDV(ドメ  
スティックバイオレン  
ス)や虐待の可能性など  
困難を抱え、未受診の妊  
婦さんを支援するため、  
地域の保健センターと連  
携し、常勤の医療ケース  
ワーカーを配置して安心  
して出産・育児ができる  
環境を保障してきたと報  
告しました。  
大阪市の現役助産師か

か。「民」でできないこ  
とは「官」でやるべき。  
政治の本質は住民の基本  
的な生活を守ることにあ  
る」と力説しました。

西成区医師会の北野喜  
彦会長は、西成区には小  
児科の専門医は1人しか  
おらず、出産できること  
ろはほぼない中で、この  
まま住吉市民病院が廃止  
されると、子育て世代は  
住めなくなると警告。小  
児・周産期医療機能の継  
続へ「医師会でも府に要  
望し、府民と市民の皆さ  
んと協力していきたい」と  
語りました。



住吉市民病院のかけがえのない役割を学ぼうと開かれた市民集会。5月24日、大阪市西成区内